

## 令和4年度 第2回佐賀県立牛津高等学校魅力強化委員会議事録

1. 日時：令和4年10月17日（水）17：00～18：15
2. 場所：佐賀県立牛津高等学校 会議室
3. 参加者：委員…長戸会長、高元委員、横尾委員、中尾委員、金森委員、東島委員、  
江頭校長（以上7名）  
事務局…北村教頭、石橋統括事務長、平方  
傍聴者…なし
4. 会次第および議事
  - (1) 開会
  - (2) 学校長挨拶
  - (3) 協議
    - ① これまでの事業についての報告  
事業報告の後は特に質問・意見等はなし
    - ② 地域との連携について
      - 本校の連携の取組についての全体把握について
        - ・校内のネットワークの中に、公開フォルダを作り、活動をとにかく何でも入れてもらう方法がある。
        - ・デジタルだけでなく、職員室の一角にホワイトボードなどを設置し、そこに活動を書き込んでもらう方法もある。
      - 継続的な取組となるための連携先との関係性について
        - ・連携先と忌憚なく話し合いができる場が必要ではないか。
        - ・小城市でも連携事業を行っているが、市との間で話し合いの場を設けたいと思っていた。いつでも設定することができる。
    - ③ 学校評価の中間評価について
      - 『C』評価とした「共通教科の基礎学力の向上」について
        - ・GTZのD1はどのようなレベルか。
          - それぞれ各学年時点でのレベルを表し、Sは難関大学、Aは国公立大学などとレベルが分かれている。D1については本校の高校生として「ここまでは」と考えるレベルのため設定した。
        - ・学習成績以外の生徒の意欲などとの相関はどうか
          - 後の資料でも説明するが、学習以外の意欲については、成績を下げている

1年生のほうが2年生よりも高い傾向を示しており、関係性が見られない。

- ・目の前で中高生を見ているが、中学生は受検までは頑張るがそれが終わると勉強していないイメージがある。新しい生活でも学習に適応する取組があるとよい。
- ・朝学習や読書をされていると思うが、その中に基礎力診断テストを意識した教材を入れてみたり、小テストを導入して到達度をスモールステップで見たりしてはどうか。

- ・生徒に「成功のロールモデル」を、その途中の成績なども含めて見せてはどうか。中学校へのアピールにもなると思う。

○ 『B』評価とした「志を高め、思いやりの心を持った他人のために働くことのできる生徒の育成」について

- ・ボランティアについて、インセンティブはあるか。

→校外学習活動の単位修得の中でボランティア活動も認定する制度が存在するが、報告書など提出しなければならない資料も多く、ほとんど申請しない。純粋にボランティアで活動する生徒が多い。

- ・他の地域と比べて、ボランティア活動の状況はどうか。

→他地域と比べると、地域などがボランティアを頼んだりする頻度は多いと感じている。

○ 『B』評価とした「選ばれる学校に向けた広報活動の工夫」について

- ・B評価としたのは、新型コロナウイルス感染症で計画した連携事業ができなかったからか。

→そのとおりである。今後、延期した小学校や別の小中学校からの依頼がさらに来ることを期待している。

※ 協議後、中間評価は承認された。

④ SAGA コラボレーションスクール事業の評価について

- ・このような意識調査があることが分かったということによいか。

→それでよい。今後、1月くらいに再度同じ意識調査を行う予定である。

- ・1月との比較で、意識の変容に注目したい。

⑤ その他

- ・牛津高校のYouTubeチャンネルを見た。生徒の声などが入るとなおよいと思うので検討してほしい。

- ・生徒が広報活動などを行う『部活動』があったり、そのような計画はあるか。

→部活動としては、生徒数減の影響で部活動も減っている現状からは考えていないが、生徒会などにそのような仕事を依頼することは検討している。

## 5. 閉会